

化学反応の「舞台」を創る

松坂 裕之 先生 (大阪府立大学 理化学研究科)

大阪府立大学より松坂裕之先生をお招きし、化学反応についての講義をしていただきました。話題の113番目の元素「ニホニウム」を題材にした元素の命名の話からスタートし、化学反応式、大阪府立大学で利用している器具の説明、分析の方法の後、大学で学ぶ意味をお話いただきました。化学反応の様子を「舞台」で表現し、同じ物質（役者）の化学反応でも「舞台」が変われば反応の効率や生成物の量（パフォーマンス）が劇的に変わることがある。

「その「舞台」を創るのが私の研究です。上手くいかない事も多いが、上手くいった時はとても嬉しい。」との言葉に松坂先生の研究に対する熱意を強く感じました。

また、「大学の研究では、「筋道を立てて考える」のが大事な事だ。」とおっしゃっていました。

「高校の教科書は、そのための知識を手に入れる知的財産である。なぜ学ぶのか疑問に思う時もあるかもしれないが、しっかり知識を得て、「筋道を立てて考える」基本姿勢を身につけなさい。」

との言葉に、受講生も大きくうなずいていました。

最後に、松坂先生が今回の講義で特に大事だとおっしゃっていた事を述べて報告とさせていただきます。

「実験室では眼鏡をかけよう。」

